令和7年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前：高田 花凜

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

約1週間の南昌市での生活は、私にとってとても充実した日々でした。はじめての海外に興奮し、中国の街の発展度合いに何度も驚かされ、歴史ある中国文化に親しむこともでき、本当にとても楽しかったです。以前は中国に対してあまり良いイメージを持つことができなかったのですが、今回の派遣事業で中国文化の素晴らしさや世界を引っ張っていくような発展した技術を実際に見たことで、自分の固定観念を覆されたとともに、もっと周りの人にも発信していくべきだなと感じました。

訪問中は、日本で味わえないような本場の中華料理を食べ、想像以上の辛さを体験しました。どの料理も楽しくて、毎日の食事の時間をとても楽しみにしていました。「ホテルでの料理は少し辛さを抑えている」と聞いたので、本場のものはどれくらい辛いのか食べてみたいです。また、今回は陶磁器について学んだり、体験したりする機会が多くありました。景德鎮市での博物館見学では古代の人々が知恵を絞って様々な用途で陶磁器が使われており、生活になくてはならないものだったと知りました。実際に絵付け体験をして、使う人のことを考えて模様を描いていくこと、配色、完成した時に美しく見せるにはどうすればよいかなど、陶磁器を1つ作るにも多くの苦労があることを学びました。陶磁器は現代にも受け継がれているので、この文化を大切に守っていきたいです。中国では言葉が通じず、困ったことも多々ありました。そのような状況の中でも自分の気持ちを伝えようとする姿勢が大切なのだと気づかされ、異なる文化を互いに認め合い、相手のことを知ろうとすることが私たち人間には必要だと強く感じました。

今回、中国を実際に訪問したことで国際交流にさらに興味を持ち、自分のこれからの進路の選択肢も増やすことができました。さらに、現代は国際協調が必要不可欠な時代へとなっている中、私たち訪問団がこの事業を通して国際交流、他国理解ができたことは本当に貴重な経験です。私たちには学んだり感じたりしたことを家族や友人など身近な人をはじめ、社会に発信していく使命があるので、これからの国際社会に貢献できる取り組みをしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回青少年派遣団の1人としてこの事業に参加できたこと、本当に感謝の気持ちで一杯です。牧野さんをはじめとした高松市観光交流課都市交流室の皆様、王さん、私たちを温かく迎えてくれた中国南昌市・景德鎮市の皆様、貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。